

教会の顔として遣わされたもの

カレンガ神父（中ブロック） 井上良后（姫路教会信徒）

私たちは、キリスト者として、神と人々への奉仕のために、十分な恵みを頂いています（Ⅱ コリント 12：9 参照）。

3年前に司祭に叙階されましたが、私はその時、奉仕の務めを果たすために、十分な恵みを頂いたのです。そして、司教様の任命によって、頂いた恵みを姫路地区の中ブロックという場をいただき、その場の中で頂いた恵みを生かそうとしています。与えられた役割を果たして行く中で、「教会」という言葉を頻繁に口にしていますが、それは、私が「教会」に遣わされているからでしょう。

イエスが、「父である神の顔」として私たちの所へ、遣わされたように、私たちを、ご自分の顔（イエスの体である教会の顔）として、皆の所へ遣わせるのです。

イエスは、「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。……私があなた方を任命したのである。」と言い、（ヨハネ 15：16） さらに、「父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす」（ヨハネ 20：21）と言いました。

その使命は、次のマタイによる福音の中の「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」（マタイ 28：19）という箇所にはっきりと出ています。その使命は教会の意義であり、信徒の存在価値でもあります。教会や私たちと与えられた使命は、してもしなくてもよいというものではありません。教会に属する者は共同体として、常に外へと向かい、宣教することが望まれています。そして、宣教の場は、いつも私たちに与えられているのです。

私の先輩たち（宣教師たち）には様々な宣教の場（病院、学校、福祉施設など）がありました。今の私たちにはあまりありません。極端に言えば、お葬式が唯一の宣教の場かもしれないという気もしましたが、信徒の皆さんはどのようにお考えでしょうか？

教会では、すでにご存じのように、信仰年をきっかけに始まった勉強会「**キリスト教を伝えるための新しい福音宣教**」が開かれています。その流れの中で、私たちは、新しい福音宣教の場を少しずつ発見することが出来ています。それは、子供たちの信仰を育む場（教会学校）、民族、国籍の違いを乗り越えて共に交わる場（国際ミサ）、愛の交わりの場（家庭）、そして、直接表には表れない祈りや、一人ひとりの奉仕の場ではないでしょうか。そういった場に、私たちが「イエスの顔」、「教会の顔」として頂いた恵みを生かすことができますように共に祈りたいと思います。

また、姫路教会ホームページに載せている「イエス様への応答文」も宣教の一つの場です。応答文は勉強会に参加している方々が強調する、分かち合いの場だからです。

今私たちが取り組んでいる勉強会の様子を少しだけお伝えしましょう。

「新しい福音宣教講座は「第一、第三（火）午前 10 時～、 第一、第三（金）午後 7 時～」教会 2 階 201 号室で聖書を楽しんでいます。皆さんの参加の動機は異なりますが、先日、講座の感想を尋ねてみました。

- ・他の人の信仰を聞くことで自分の信仰も成長したように思う。
- ・皆で同じ文章を読むことで、良い分かち合いが出来ている。
- ・幼児洗礼だったので今まで知らなかった事を知ることができてうれしい。
- ・歴代の教皇様のことを知り、教皇様が身近に感じられるようになった。
- ・新しい宣教に興味があり参加した。いろいろな文章に触れ、難しいが新たな気付きがある。
- ・空っぽだった信者としての引き出しが少しずつ満たされていくようで感謝…

等々、自分の成長を実感できたという声にあふれていました。

最後に、福音宣教講座を運営している信徒の方からこの講座へのお誘いです。

「毎回、神父さんが聖書の中からテーマを下さいます。私たちはこのテーマについて神父さんの話を聞くだけでなく、皆でよく話し合います。時には、脱線することもあります。いろいろな気づきが分かち合いの中に潜んでいます。

これは皆で作りに上げていく勉強会なのです。そして、同じ考えでなくても、分かり合えるのは、皆の真ん中にいつも神様がいて下さるからです。帰り道、私はいつも、豊かな気持ちになっています。どこに、たどりつくかわかりませんが、神様の用意されたツアーは楽しく安心です。」